

村上市横断歩道橋修繕計画

1. 現状と課題

本市が管理する横断歩道橋は2橋あり、平成26年度に点検が義務付けられてからは、それぞれ定期点検を実施しています。

いずれの施設も、東日本旅客鉄道株式会社が管理する軌道上にあるため、列車の運行を妨げることがないように適切な維持管理が求められます。

特に上部工に用いられている鋼材などの腐食物の剥落は、鉄道管理者の事業運営とその利用者へ直接損害を与える可能性があるため、鉄道事業者との連携のもと、第三者被害防止の観点から予防保全型（予防維持型）により管理を行い、適切な時期に補修する必要があります。

2. 管理施設

No.	施設名	路線名	延長	備考
1	腰廻1号橋	市道坂町山口線	108.2m	平成28年度点検
2	桃崎人道橋	市道藤沢停車場線	70.7m	平成29年度点検 令和6年度修繕完了

市道坂町山口線 腰廻1号橋（令和7年3月現在）

市道藤沢停車場線 桃崎人道橋（令和7年3月現在）



3. 計画期間

本計画の計画期間は、5年に1回の定期点検サイクルを踏まえ、令和7年度から令和11年度までの5年間とします。

4. 横断歩道橋の状態把握

横断歩道橋の維持管理の基本は、施設の健康状態を把握することです。このための点検やパトロールを本市の管理する2橋に対して定期的に行っていきます。

5. 修繕計画の概要と取組み

いずれの施設も近隣住民の生活において必要な施設であることから、将来にわたって機能を継続的に発揮するために、状態把握・維持修繕対策などの管理を行います。施設の老朽化対策を確実に進めるため、点検から始まり、診断、措置、記録というメンテナンスサイクルを構築します。メンテナンスサイクルの推進により、適切な維持管理を実施します。

6. 対策の優先順位の考え方

点検結果に基づき、効率的な維持及び修繕が図られるよう必要な措置を講じます。

1 巡目の点検結果から、いずれの歩道橋も老朽化が進んでおり、早期対策が必要な状態ですが、特に老朽化が進み緊急性が高い「桃崎人道橋」の修繕を行い、令和 6 年度に完了したことから「腰廻 1 号橋」の修繕に着手します。

7. 施設の状態・対策内容及び実施時期

対象となる施設の具体的な状態・対策内容及び実施時期について、健全度を把握し、修繕の必要がある施設について優先順位を決定し、計画的に修繕を実施していきます。

8. 新技術等の活用及びコスト縮減効果

コスト縮減や維持管理の効率化を図るため、国土交通省「新技術情報提供システム (NETIS)」「新技術利用のガイドライン (案)」「点検支援技術性能カタログ」等を活用し、維持管理に関する最新のメンテナンス技術の積極的な活用を図ることとします。なお、新技術の活用方針としては、点検時に小型ドローン等の使用、3D 測量等の新技術の活用を検討し、令和 9 年度 (予定) までに 1 橋において、約 40 万円のコスト縮減することを目標とします。

9. 集約化・撤去及びコスト縮減効果

当市で管理する 2 施設は JR 鉄道を跨ぐ施設であり、通学路としても使用されています。近傍に踏切等が無いことから、隣接する迂回路を通行した場合、下表に示す距離と時間を要し、社会的活動等に影響を与えます。

そのため、施設の集約化・撤去による費用縮減は困難であり、予防保全的な修繕等を実施することにより、維持費用の大規模化及び高コスト化を回避し、令和 11 年度 (予定) までに 1 橋において、約 6 百万円のコスト縮減することを目標とします。

迂回に要する距離と時間一覧

No.	施設名	迂回距離	所要時間
1	腰廻 1 号橋	600m	7 分
2	桃崎人道橋	300m	3 分

10. 対策費用

点検時に算定した対策費用は、概算で 295,800 千円です。

